

全国道路利用者会議「第75回定時総会」

令和5年5月16日（火曜日）

令和5年5月16日、東京・千代田区の砂防会館別館シェーンバッハ・サボアで全国道路利用者会議「第75回定時総会」が開催され、長野恭紘市長が出席しました。

本大会は毎年開催され、着実な道路整備・道路関係予算の確保を求めるため全国から多くの市長村長が参加しています。

決議採決では、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策に必要な予算・財源を例年以上の規模で確保し、計画的に事業を推進するとともに、対策期間完了後も、昨今の地震・豪雨・豪雪などの災害の状況も踏まえた上で、国土強靱化に必要な予算・財源を通常予算とは別枠で確保して、継続的に取り組むことなど6項目が決議されました。



創立60周年記念「旅の日」の会内第42回日本旅のペンクラブ賞贈呈式

令和5年5月16日（火曜日）

令和5年5月16日に東京・千代田区の学士会館で日本旅のペンクラブ主催・第36回「旅の日」の会が開催され、旅の文化の向上に寄与したと認められる団体、個人、行政機関等に贈呈される「日本旅のペンクラブ賞」に「別府八湯温泉道名人会」が選ばれ、長野恭紘市長が祝辞を述べました。

日本旅のペンクラブの会員は旅行ジャーナリスト、ライター、編集者、作家など多彩な職業の方々に、本会で別府八湯温泉道（スタンプラリー）を通じた別府温泉の楽しみ方が更に広まっていくことを期待しています。



第1回 おおいた暮らし塾in東京

令和5年4月22日（土曜日）

令和5年度、最初の「移住定住相談会 おおいた暮らし塾in東京」がオンラインで開催されました。

主催は大分県で、別府市を含め県内8市町が参加し、またこの他に移住定住全般や就職、就農、起業など4つの専門ブースが設けられました。

今回は事前予約制で、全体で予約16組のうち13組の方が参加され、県内8市町村及び専門ブースの相談合計は34組になりました。別府市ブースでは5組の予約枠が全て埋まりましたが、当日キャンセルなどで、3組の方が個別相談をされました。

相談者からは、別府市に住むにあたって車が無い場合、買い物や温泉施設の利用などに便利がいい地域はどこか、また、公共交通機関の状況や、物価、求人の状況、子育て世代の方からは医療機関の状況、医療費の無料化の状況などについても質問がありました。

また、移住に関する補助金や支援金については、空き家バンクを利用することが前提となっているものが多いが、空き家バンク物件の状況について、売買か賃貸か、またどの地域に物件が多いかといった質問もありました。

中には、既に別府市にお見えになって、移住前提で1週間程度滞在された方、具体的に物件を見に行く方など、かなり積極的に取り組まれている方々もおられました。

その他、移住者を受け入れる別府市民の気質や、共同温泉を中心とした地域コミュニティについては、別府ならではのものとして興味深くお聞きになっておられました。

この移住定住相談会は、今後も対面あるいはオンライン形式で定期的開催される予定です。



第9回 おおいた暮らし塾in東京

令和5年3月12日（日曜日）

移住定住相談会「第9回おおいた暮らし塾in東京」が東京都渋谷区のSHIBUYA QWS(渋谷キューズ)内 クロスパークで開催されました。

主催は大分県で、別府市を含め県内5市が参加し、また、県全域を対象とした就職、起業、就農の3つの部門で、説明と座談交流会が行われました。さらに、就職、起業、就農の3部門では個別相談も行われました。

今回のおおいた移住交流会は、よりカジュアルに大分の魅力を感じていただけるようにと初めて渋谷で行いました。渋谷は、商業施設が多い繁華街で若者や外国人観光客など多くの人々が集まる街です。会場のSHIBUYA QWSは、その渋谷を見渡すことができる渋谷駅に直結した渋谷スクランブルスクエア15階にあります。

開催の形式も、これまでの各市による個別相談主体のものではなく、最初に各市と各専門部門の方がプレゼンテーションを行った後、座談会形式で参加者と説明者側がより近い距離での質疑応答を行いました。

今回は、これまで参加の多かったシニア世代に加え、渋谷という場所柄と、相談会ではなく交流会というカジュアルな企画だったことから、多くの子育て世代の方がご来場になり、全部で15組34名の方に参加いただけました。

座談会は、子育て世代のグループと、その他のグループの2つに分けて行いましたが、子育て世代のグループでは、子育て支援策や子育て環境についての質問が多く出ていました。また、もう一つのグループでは、買い物の利便性や物価、まちの特徴、お試し移住施設のことなど広範囲にわたって質問が出ていました。

この移住定住相談会は、今後も対面あるいはオンライン形式で定期的で開催される予定です。



第32回国際MICEエキスポ IME2023

令和5年2月16日（木曜日）

2月16日、東京都千代田区の東京国際フォーラムにおいて「第32回国際MICEエキスポ IME2023」が、（一社）日本コンgres・コンベンションビューローと日本政府観光局の主催で開催されました。

MICEとは、Meeting（企業会議・研修）、Incentive Travel(報奨・研修旅行)、Convention（政府主催会議・学会会議・業界会議）、Exhibition（展示会・見本市・イベント）の頭4文字からなる造語で、産官学の各組織が、ビジネスや政治、学問的なテーマのもとで開催するビジネスイベントの総称です。

MICEは、企業活動や研究・学会活動等と関連している場合が多いため、開催地域への集客がもたらす経済効果や観光振興の側面だけでなく、ビジネスチャンスやイノベーションの創出を促したり、都市知名度やブランドイメージを上げたりするなど、様々な波及効果が期待できます。そのため世界の国や地域が、積極的にMICEの誘致・開催に取り組んでいます。

今回のIME（International MICE Expo Japan）は、2020年以来3年ぶりとなるリアルでの開催で、これらMICEを誘致するための商談イベントです。

今回は、約500人のMICEバイヤーが訪れ、全国から参加した73のセラーとの間で約1000件の商談が行われました。

別府市からは、観光課と（公社）ツーリズムおおいた、（株）コンベンションリンケージ（B-Con Plazaを管理運営）が一体となって出展し、MICE開催にあたってB-Con Plazaや市内の宿泊施設のPRを行い、質量ともにあらゆるMICEが受け入れられること、さらにそれに対する支援制度、そしてアフターMICEへの対応など別府市の観光地としての魅力を積極的に売り込みました。

別府市では、今後もIMEなど様々な機会を通じて、継続したMICE誘致活動を行っていきます。



BEPPU FAN TOWN（ベップファンタウン）関東交流会

令和5年2月7日（火曜日）

2月7日、東京都渋谷区Daiwa渋谷スクエア「HENNGE(株)」（ヘンゲ株式会社）において「BEPPU FAN TOWN 関東交流会」が開催されました。

「BEPPU FAN TOWN」は、別府で起業や事業拡大を志す人と、それを支える人たちとの出会いを創出するオンラインコミュニティです。

このコミュニティは、サポーター、メンター、チャレンジャー、ファンの4つの区分に分かれており、ご自身にあった区分に登録し、メンバーになることができます。

例えば、サポーターは別府のチャレンジャーや別府市に関係する事業を応援したり、メンターはチャレンジャーから相談を受けたり、チャレンジャーは相談することができたり、ファンはメルマガによって情報収集できたりします。

また、オンライン上でメンバー同士が繋がることで、物理的な距離に関係なく応援したり、サポートを受けたりすることができるようになります。

「BEPPU FAN TOWN」は昨年2月に始まり、現在チャレンジャー約100人、サポーター90社、メンターやファン約500人が会員登録しています。

今回は初めての関東交流会開催で、関東在住のサポーター企業をはじめ、このコミュニティに参加している方、あるいは参加し別府を盛り上げたい方など約40人が集まりました。

運営事務局のB-biz LINK(ビービズリンク)は「今後も交流会を継続し、全国からこのコミュニティを応援いただける皆様を募っていきたい。」と話しています。

 [TOWN \(ベップファンタウン\) 関東交流会の写真集 \[274KB\]](#)



JAPAN STARTUP SELECTION the 9th Edition

令和5年2月2日（木曜日）

ビジネスマッチングイベント「JAPAN STARTUP SELECTION the 9th Edition」が東京都渋谷区にある渋谷スクランブルスクエア東館15階 渋谷QWZで開催されました。

主催は「スタートアップ」の支援に先進的に取り組む8自治体で構成される「スタートアップ都市推進協議会（加盟自治体：広島県、青森市、つくば市、千葉市、浜松市、熊本市、福岡市、別府市）で、会場では、各都市で選ばれたスタートアップ21社によるピッチ（ショートプレゼンテーション）、ブース展示、自治体の首長によるトークセッションプログラムが行われました。

今回の「JAPAN STARTUP SELECTION」は3年ぶりのリアル開催として、13:00から18:00の時間で行われました。イベント参加者は200名程で、ステージでのピッチ、トークセッションに加えて、参加企業同士の名刺交換や商談も行われ、非常に盛り上がりのあるイベントとなりました。

別府市からは、「株式会社アイプロダクト」、「合同会社Wells Be」の2社がピッチに登壇し、2社ともイベント参加者に向けて事業のアピールをしていました。

また、首長トークセッションでは、長野恭紘市長も動画配信という形で登壇しました。「地域発スタートアップの成長促進」をテーマに、鈴木康友浜松市長、神谷俊一千葉市長と、スタートアップ施策の取組みと課題、今後の展望を交えながら意見交換を行いました。

[JAPAN STARTUP SELECTION the 9th Editionの写真集 \[274KB\]](#)



全国市長会 理事・評議員合同会議

令和5年1月25日（水曜日）

全国市長会の理事・評議員合同会議（別府市長は評議員）が1月25日、東京・千代田区の日本都市センター会館において、マスク着用、入室時の手指消毒、随行者は1名までとするなど新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で開催されました。

合同会議では、まず全国市長会会長の立谷秀清相馬市長が、子ども家庭庁の創設やマイナンバーカードへの市町村の対応についてなど最近の国の動向を含めて開会のあいさつをしました。

続いて、「地方行財政の課題」と題して内藤尚志総務審議官による講演が行われ、活力ある持続可能な地域社会を実現するために、大きな3つの柱（DX・GX等を通じた地域活性化の推進、地域の人材力の強化、安全・安心なくらしの実現）を据えて取組を行っていることや、持続可能な地方行財政基盤を確立するために自治体が自由に使える一般財源総額を適切に確保することが重要であること等をお話しされました。

その後、諸会議の開催状況等について事務局から報告があり、最後に令和5年度全国市長会の事業計画案及び収支予算案について内容が示され、令和5年6月に行われる総会にて決定されること等が協議されました。



全国市長会 行政委員会・地方分権改革検討会議・外国人受入れ問題に関する検討会合同会議

令和5年1月25日（水曜日）

全国市長会 行政委員会（別府市長は評議員）・地方分権改革検討会議・外国人受入れ問題に関する検討会（別府市長は委員）合同会議が1月25日、東京・千代田区のホテルルポール麹町で新型コロナウイルス感染症対策を徹底した上で開催されました。

はじめに行政委員会委員長の池田宜長都城市長が、「DX（デジタルトランスフォーメーション）では令和7年度の自治体情報システムの標準化・共通化に向けて作業を着実に進めていかねばならない」等、あいさつしました。

続いて、各会・会議ごとに講演が行われ、行政委員会では「地域活性化施策」について大村慎一総務省地域力創造審議官が地域おこし協力隊の今後の隊員数を現在の約1.7倍の1万人を目標としていることや、任期満了後に隊員の約65%が同じ地域に定住していること等説明し、自治体の受入れについて協力をお願いしました。

地方分権改革検討会議では「地方分権改革・提案募集方式」について加藤主税内閣府地方分権改革推進室長が市区町村からの提案が増加していることを説明し、提案検討がしやすいよう後押しの取組を行っていること等を説明しました。

外国人受入れ問題に関する検討会では、「出入国在留管理庁における在留外国人支援の取組」について渡邊浩司出入国在留管理庁在留支援課長が、外国人在留支援センター（FRESC）等について説明をしました。



令和4年度関東別府市人会総会・懇親会

令和5年1月15日（日曜日）

令和4年度の関東別府市人会総会・懇親会が、東京都新宿区の日本青年館ホテルで3年ぶりに開催されました。

総会・懇親会には約50人が出席し、山本信也会長が、「新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、3年ぶりの開催となったが、数日前のNHKの朝の番組で、別府の湯けむりが放送されており、嬉しくなった。元日の新聞では、宇宙港などこれからの飛躍につながる明るいニュースも掲載されていた。今年は皆さんとよい年にしましょう。」とあいさつ。

同時に、2020年度から2022年度までの決算報告を行い、渡辺真一郎監事から監査報告がありました。

来賓では、阿南寿和別府市副市長が「コロナ禍で大変な状況が続いていたが、最近はお客様も回復傾向にあり、ホテルなどは建設ラッシュとなっている。9月には給食の共同調理場がオープンし、新図書館は令和7年度に開館する予定。市制100周年に向け、今後、皆様の更なるご指導ご鞭撻をいただきたい。」とあいさつ。

続いて、岩屋毅衆議院議員が「この3年間は塗炭の苦しみであった。新型コロナの影響を直接受けた。昨年9月から旅割が再開したところに、感染がぶり返してしまったが、国民も慣れてきてインバウンドも戻ってきている。ホテルの建設は別府の将来性を期待したものだ。今年を観光再生元年にしていかなばならない。」とあいさつ。

最後に、馬場真由美大分県東京事務所長（別府市出身）が、最近の県内の話題（昨年の植樹祭、車いすマラソンや宇宙港、今年度のホーバーの就航、令和6年春の福岡・大分ステーションキャンペーン）に触れ、あいさつをされました。

懇親会では、島和歌子理事が乾杯を行い、その後出席の皆さんは、別府の話題に花を咲かせ、懇親を深めておられました。

 [令和4年度関東別府市人会総会・懇親会の写真集 \[156KB\]](#)

